

## ジェンダーと感情労働



とみなが けいこ  
福岡大学非常勤講師 富永 桂子

年末、郵便局の窓口は込み合っていた。突然、中年男性が列を抜け、窓口の若い女性局員に罵声を浴びせかけた。ヒヤッとした空気が走る。女性職員は少し驚いた様子であったが、落ち着いて待ち時間の長さを詫びながら説明した。女性職員を脅して、局内を震え上がらせる効果がないとみてか、男性は列に戻っていった。急いで管理職らしい男性が駆けつけたが、すでに事は収まっていた。若い女性が配置された窓口業務は、こうした予期せぬ攻撃にさらされやすい、という。

近年、看護や介護職、コールセンターの電話受付など、人とかわり、感情をコントロールする必要がある労働を、感情労働と呼んでいる。感情と労働をむすびつけて「感情労働」という新たな概念をつくりだしたのは、アメリカの社会学者A. ホックシールドである。

顧客と特定の感情関係を築くことが、職務遂行の中心をなすような職業がある。一般的にそれらは、どちらか一方の性に向いているとされている職業である。ホックシールドによれば、感情労働は、サービス産業の拡大に伴ってますます一般的になってきている、という。これをとらえて、オーストラリアの社会学者R.コンネルは、もしそうだとしたら、商品化された感情とジェンダーのステレオタイプを基盤とする疎外された関係は、近代的生活ではますます重要になってくるだろう、と予測している。

しかしそうなるのだろうか。ジェンダー・ステレオタイプの基盤がゆるぐことで、商品としての感情は重要視されなくな

る、とは考えられないだろうか。

男性の自殺の多さに着目した心理学者の林真一郎は、自殺は感情制御の破綻の極端な結果であり、男性役割をめぐる葛藤が、適切な感情制御という潜在力の発現を妨げているのではないか、という。そうであれば、男性役割の葛藤の除去は、男性の感情表現を豊かにするだろう。

イクメンを求める声が高まっている。女性からも男性自身からも。それは、家計を担う女性からの異議申し立てとも、男性が稼ぎ手としての役割に疑問を感じ出したとも考えられる。男性はこれまで抑制されてきたやさしい感情、慈しみの感情を、感知し、表出しはじめています。

今後、顧客への気遣いといったやさしい感情は、女性の職業的武器にはなりにくいだろう。他方、女性が感情へ敏感に反応し、適応的・協力的感情を有するのは、女性の「生来」のものや、「自然」の産物とも考えにくい。感情は、その生成／体験においても表現においても、特定の社会・文化的、時代的磁場のなかで、はじめて具体化されるものであるといわれる。

女性の責任ある仕事の継続によって、顧客への冷静な対応は、もはや男性の職業的武器とはみなされなくなった。顧客に脅される女性職員とそれをサポートする男性職員、というステレオタイプ化された男女の役割は今や過去のものとなりつつある。男女とも顧客との対応で必要とされるのは、感情操作ではなく、的確な判断と職務侵害を回避する能力を研ぐことであろう。

### Cutting-Edge 第40・41合併号

【発行】 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ  
【発行日】 2011年2月28日



北九州市立男女共同参画センター **ムーブ**  
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4  
Tel:093-583-3939 Fax:093-583-5107  
ホームページ <http://www.kitakyu-move.jp>  
E-Mail [move@move-kitakyu.jp](mailto:move@move-kitakyu.jp)



# Cutting-Edge

[カティング・エッジ]

## MOVE この人にきく

### 国際結婚 —— グローバル化する日本人

いま、日本人のグローバル化が進んでいる。2009年、長期に海外で暮らす日本人、海外在留邦人(永住者と長期滞在者)は戦後過去最高の約113万人である。日系人を合わせると300万人以上の日本人が海外で暮らしている。海外在留邦人は国際結婚、定年後の海外移住など今後も増加すると予測されている。一方、日本国内で暮らす外国人登録者数は約220万人、世界190カ国の人々が暮らしている。海外在留邦人、在日外国人ともに男性よりも女性人口のほうが多い。

1965年、日本人の国際結婚割合は0.4%、250組に1組であったが、1980年代後半から急増し、2006年には日本国内で16組に1組、全世界では実に13組に1組となった。日本国内では外国人女性と日本人男性の婚姻が多く、外国では日本人女性と外国人男性の婚姻が最も多くなっている。これらに伴い、親が外国人の子どもの出生数も増加している。2008年、外国における日本人の出生数は15,563人で過去最高である、1965年の(出生数1,074人)14.5倍になる。日本における親が外国人の子どもの出生割合は、全国で3.4%、29人に1人である。1987年から2008年までの出生総数は約67万人である。

これらのデータは何を意味するのであろうか。子どもの親の



李 節子  
り せつこ  
長崎県立大学大学院人間健康科学研究科教授  
日本グローバルヘルス研究センター所長

ルーツ、人種、文化が多様化し、日本人が確実に多民族化しているということである。しかし、その実態をほとんどの日本人、日本社会は認識できていないまま日常的に「日本人」という言葉を頻繁に使っている。「やっぱり日本人だね」「日本人ばなれしている」「日本人の肌の色にあっている」などである。はたして、「日本人風」とは、反対に「外国人風」とはいかなる人物をさしているのか、「ハーフ」とはどういう意味を持つものなのか、その内実が問われないままである。

近年、日本人女性とアフリカ系男性との結婚によって、「アフロジャパニーズ」の子どもたちも数多く誕生している。子どもたちの多くは「人種」を起因とした差別にさらされている。「なぜ、私は皮膚の色のことでいじめられるの? 私は日本人なのになぜガイジンと言われるの? どうして?」という子どもたちの問いを私たち大人はどう受け止め、行動すべきなのか。1996年、日本は人種差別撤廃条約を発効しているはずである。

いかに民族、人種、宗教、文化を越え相互に異なることを認め合い尊重し共存していくことが、豊かで平和な社会の実現のために必要不可欠なことであるか、日々痛感している。実質的に多文化共生社会へと変わる日本に期待したい。

## CONTENTS

□ MOVE この人にきく	李 節子	— p.1
□ Books ジェンダー最・前・線		
『女性差別撤廃条約と日本』(山下泰子 著)	阿部 浩己	— p.2
『ジェンダー平等と多文化共生』(辻村みよ子、大沢真理 編)	漆原 朗子	
Gender, Islam and Democracy in Indonesia	レイウイン	— p.3
(Kathryn Robinson 著)	・コンネル	
『タブー』(フォーリア・サイド 著)	田中 雅一	
『大人になる前のジェンダー論』(浅野 富美枝 他 著)	吉村 明訓	— p.4
『親子という病』(香山リカ 著)	黒瀬 まり子	
□ 合併号特別寄稿	草谷 桂子	— p.5
『本の力』～豊かな読書環境を!～		
□ ジェンダー・レポート	杉橋 やよい	— p.6
国連開発計画が提唱する新しいジェンダー不平等指数— データ加工の落とし穴		
□ ジェンダー・エッセイ	富永 桂子	— p.8
ジェンダーと感情労働		